

木林さ。

一平田 壱加三日
トモリ

ご予ちだしてございます。昭和一五年以来、約六〇年向も木林さん
お居らしこロませが、昨日、偶然に月封の新聞紙上の木林さんの写真
と出合いました。なつましく思ひました。貴重録は充分ですか、
昔の、おも影がよく見うれます。お元気で大活躍されており、
たゞへん姫——思ひます。お久しぶりとう感じますね。……
ところで、初めて知りましたが、原爆のとき、木林さんも被爆され、
ご西郷さま、お見えら夫妻、めいごとも残念なごごとくしちゃ。
せくなくれましたかやのう冥福を祈ります。私は、61歳30年
魔戸二郎隊(十一連隊)にあり、命度²、駿河湾、相模湾の防衛の
ため、そちらに移動して、アメリカ軍の上陸に備えておりました。
中学生二年のとき、原さん、南部さん(名多分?)、から職町の
木林さん宅におじゃましたことを覚えててあります。お母さまとお父さん
し左よう江恩のまます。残念なふうです。

3.

"一中→ 広島の仲間は、よくお食いになつてゐるところと思ひます。が、アラトサイダーの私事、なかくヨリ学級の人々食えました。こし若。しかし、歳をとるに従つて、ころんと人を再会することなり、いままづは、(囲碁) 中村、庄本、原(故人)、藤井(故人)、平山、竹本正蔵、阿部、南部(故人) 会へ、鷹島、大下、平見、加藤(故人)は、まだ会つてゐません。(伊藤政) 宮地鬼虫(津ちだ)とは、左記くお食いしきあり、小松先生(故人)とも、喜んでよく会のすき。それから、りっぱな人生のようござすか。人柄はみんな好印象を残ります。ね。……

松任

戦後

広島文理大、京都帝大院(文、書) フランク(1947) まで。

廣島大(文) 助手、講師、つづく文部省調査官、広島大(英) 助教授、教授(部長) で、多年退官。……さらば、広島大教授、掌長補佐、広島文理高(現) 大学長たへ。今日に至つておます。あた、ひとつが、森(故人) とお處(故人) しきしき。鳴沼、松川(故人) 氏の尊(故人) がおられ、隣りの街かた? と思ひます。奥さへによる。お伝え下さい。

11/23

平田